

天溪 2016 年「ピレネー国境横断ハイキング 10 日間」

第 2 部

ピレネー山脈はイベリア半島の付け根付近を東西に走り、フランス・スペインの国境を地中海から大西洋に至る全長約 430Km、幅 100Km の褶曲山脈で、最高峰はアネト山 (3404m)。ハイキングするのはその中央部、3000m 級の山々が連なり、古くはレコンキスタでキリストとイスラムが数百年に渡りせめぎ合った所です。ツアーはフランク王国のカール大帝の時代 (9 世紀前半) に戦で敗れた彼の甥ローランを称えた抒事詩「ローランの歌」発祥地、ローランの裂け目を越えフランスからスペインへ国境越えをします。余談ですが、この地方は良質なワインの産地でボルドー (フランス) やリオハ (スペイン) に近く、ワイン通には欠かせない地域でも有ります。



(ローランの裂け目・フランス側 9/3 日)

○国境越 1 日目 (サラデ小屋・フランス側)

今迄ガバルニーからサラデ小屋へ向かうにはタンテ峠を歩いてきましたが、今年はサンチャゴ・デ・コンポステーラへ向かうホタテ貝マークの巡礼街道を使い、圏谷を左側に見ながら登り、途中で街道と別れ急坂を登ってサラデ小屋向かう、標高差 1100m のコースに変更。少々登り応えは有りますが素晴らしい景色を堪能できました。

サラデ小屋に着いてビックリ、小屋は大改装中。事前に工事は知っていたものの重機、クレーン、ヘリコプターの荷物輸送等 想像以上に大掛かりな工事でした。来年小屋をクローズするとの事で、このツアーも残念ですが中止でしょうネ、きっと。



(ガバルニー圏谷の壁 8/25 日)

1回目



2回目



サラデ小屋改修工事



○国境越 2日目(ゴリッツ小屋・スペイン側)

入山 2 日目は伝説のローランの裂け目を通り国境越えをする日。何故か小さくなった大雪田を右に大きく回り込み、急登を抜けると裂け目のコルへ。ここはコースの最高地点で一休み、スペイン側はガレ場状で、足元に注意しながら下山開始。目の前に広がるオルデッサ圏谷、しばらく進むと正面にペルデュ山(3352m)が姿を表しました。ペルデュとはどこからも見えないという意味だそうです。



(スペイン側からの裂け目 9/3日)

1回目



2回目



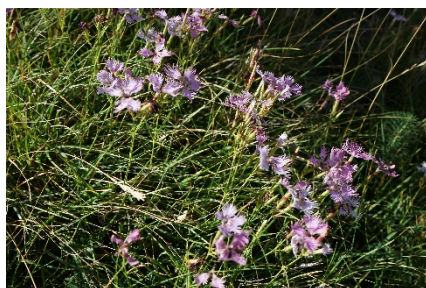
○国境越え 3日目

ゴリツ小屋を発ってオルデッサ圏谷を下って行くと今年も有りました、エーデルワイスの群生が！乾燥から造花状態でしたが、斜面一帯に広がるこの花は圧巻の一言。急坂を下り切り、通称馬の尻尾と言う滝で一休み。そこでガイドのフィリップ氏からトレイル選択の提案が、右・中・左の三コース。今迄中コースだったので1回目は左、2回目は右を選びました。どちらも圏谷の中腹を等高線に沿って進み最後に大きく下る、中々高度感が有って楽しませてくれました。宿泊地のトルラはフランス交易の中継地として栄え、渋みが有って落ち着いたたたずまいにかつての栄華が忍ばれます。



(オルデッサ圏谷 9/4日)

1回目



2回目



○バルセロナへ

トルラからの道筋に有り、黒いマリア像で有名なキリスト教聖地のモンセラート修道院で聖歌隊の歌を聞いてからバルセロナへ。モンセラートとは「ギザギザな山」を意味し、巨匠ガウディもこの山の造形を作品に取り入れたとの事。言われてみればサグラダファミリアも何だかそんな気がしてきます。1回目のツアーはバルセロナ入りが日曜日。ピカソ美術館は月曜休館で同日の見学になりました。しかし、日曜日は14時半迄しか団体入館を受け付けないので一般入館に。延々と待ち続けること2時間、漸く入館しましたが日曜は入館料無料、儲かったような損したような・・・



(スペイン名物バエリア 9/5日)

1回目



2回目



天溪ツアーの「ツールドモンブラン 10 日間」を 8 月 28 日～9 月 6 日に行いました。しかし、筆者はピレネーにおり、シャモニガイドの中島政男さんに添乗&ガイドをお願いしました。今年は天気が安定し数年ぶりに難所アルペッタの窓越えが出来たそうで、皆様さぞ満足されたと思います。

次の天溪ツアーは所をチロルに移し「チロルとドロミテハイキング 10 日間」をお届けします。

記 天溪 赤沼